

【第67回 日本電気泳動学会総会】のお知らせ

日本電気泳動学会会員の皆様

第67回日本電気泳動学会総会は下記の要領で開催します。参加登録の受付を開始しました。ホームページを参考に、事前登録をお願いします。

([第67回日本電気泳動学会ホームページ](#))

一般演題を募集します。今までと同様に、本年も多くの発表をお待ちしています。詳しくはホームページの「参加者・発表者へのお知らせ」をご覧ください、「抄録 テンプレート」を用いてご投稿ください。

注意：抄録集では、ご本人が登録されたデータをそのまま使用いたします。ミスタイプがあってもそのまま印刷されますので、発表者・執筆者の責任においてご注意ください。登録締切後の原稿の変更はできません。重要な共同演者が漏れることのないように、投稿前に十分ご確認ください。

申込の締切は、**5月27日（金）**です。奮ってご発表ください。

第67回 日本電気泳動学会総会
総会長 近藤格
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立がん研究センター研究所
E-mail: 66th-meeting@jes1950.jp

第 67 回日本電気泳動学会総会

総会長 近藤格（国立がん研究センター）
会 期 2016年8月26日（金）～ 27日（土）
会 場 釧路市観光国際交流センター
（〒085-0017 釧路市幸町3-3 TEL: 0154-31-1993）

参加費 正会員、準会員、メール会員は無料
非会員の方には若干のご負担をお願いするかもしれません
懇親会参加費 8,000円

予定シンポジウム

シンポジウムのタイトル、順番、講演タイトル、講演順番等は変更があります。一般演題を締め切ってから講演の時間帯を発表します。

講演予定

セッション1:電気泳動による臨床検査・機能性食品の新たな展開
オーガナイザー:森山隆則先生(北海道大学)

「腫瘍産生シアルル唾液型アミラーゼの発見とその後の展開」

森山隆則先生(北海道大学)

「DNA シーケンサーによる HIV 薬剤耐性変異の検出とその課題」

吉田繁先生(北海道大学)

「マガキ由来抗酸化物質における機能性食品としての可能性」

布田博敏先生(北海道大学)

「検査室での ApoE-rich HDL との遭遇から診断薬開発まで」

布田博敏先生(北海道大学)

セッション2: 蛋白異常を標的とした病態解析と診断治療へのアプローチ

オーガナイザー: 安井寛先生(東京大学)

「多発性骨髄腫における先端医療開発の今後」

安井寛先生(東京大学)

「Serum Free Light Chain and Heavy/Light Chain Analysis for Diagnosis of Monoclonal Gammopathies including Multiple Myeloma」

Nuno Barbosa 先生(The Binding Site Group Ltd, イギリス)

「ポリアクリルアミドゲル電気泳動によるマラリア患者リポ蛋白解析」

磯尾直之先生(東京大学)

「3次元電気泳動によるM蛋白解析とその多様性」

中野恵一先生(北海道大学)

セッション3: キャピラリー電気泳動法の最前線

オーガナイザー: 志村清仁先生(福島県立医科大学)

「キャピラリー電気泳動によるエリスロポエチンの分析」

志村清仁先生(福島県立医科大学)

「RNA キャピラリー電気泳動」

山口佳則先生(大阪大学)

「オンチップ電気泳動システムによる生体由来ナノ粒子解析」

一木隆範先生(東京大学)

「キャピラリー電気泳動法を用いる細菌および動物細胞を認識する DNA アプタマーの新規獲得法」

齋藤伸吾先生(埼玉大学)

「生体分析への応用を目指した簡易操作型マイクロチップ電気泳動法の開発とさらなる高感度化」

北川史彦先生(弘前大学)

セッション4: Phos-tag 電気泳動法の応用

オーガナイザー: 木下英司先生(広島大学)

「質的・量的なリン酸化ダイナミクスを捉える Phos-tag SDS-PAGE」

木下英司先生(広島大学)

「神経細胞における微小管脱重合の制御機構の解明: Phos-tag からリン酸化定量プロテオミクスまで」

小川覚之先生(東京大学)

「Phos-tag を利用した腫瘍細胞における核内タンパク質群のリン酸化制御機構の解明」

石垣靖人先生(金沢医科大学)

「Phos-tag を利用した腎微小循環系におけるミオシンリン酸化制御機構の解明」

竹谷浩介先生(旭川医科大学)

「Phos-tag を利用したエンドセリン A 型受容体作動性 TRPC6 チャンネルの制御機構の解明」

堀之内孝広先生(北海道大学)

セッション5: 臨床検査における電気泳動法

オーガナイザー: 飯島史朗先生(文京学院大学)

「蛋白分画と免疫電気泳動は相思相愛？」

上田一仁先生(市立芦屋病院)

「生化学自動分析装置における異常反応検出機能によって検出された検体の解析」

本田早織先生(千葉大学)

「電気泳動の臨床検査への応用(仮)」

土屋達行先生(けいゆう病院)

「尿タンパク電気泳動をペットの腎症診断へ」

ハウリー亜紀先生、飯島史朗先生(文京学院大学)

セッション6: 悪性腫瘍の分子背景を探る技術としての電気泳動法

オーガナイザー: 近藤格(国立がん研究センター)

「バイオインフォマティクスを用いたオミクス解析」

Cuneyd Parlaman 先生(イスタンブール医科大学、トルコ)

「ハプトグロビン・ペプチド: 血清プロテオーム・ペプチドーム解析による肺扁平上皮がんの新規腫瘍マーカー」

清家正博先生(日本医科大学)

「蛍光二次元電気泳動法を用いた大腸がんのプロテオーム解析と APC-binding protein EB1 の臨床応用への試み」

杉原豊先生(ルンド大学)

「大型蛍光二次元電気泳動法を用いた胆道がんのプロテオミクス解析-胆道がん細胞株、Xenograft モデル、臨床検体を用いて-」

諸藤教彰先生(康和会 久我山病院)

「新規治療法開発のための骨軟部腫瘍のタンパク質発現解析__手術検体と腫瘍細胞の両側面より考える__」

末原義之先生(順天堂大学)

「希少がんである粘液線維肉腫の浸潤性に関わるバイオマーカー開発のためのプロテオーム解析」

菊田一貴先生(慶應義塾大学)

「2D-DIGE を用いたヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の併用療法のターゲットの同定」

藤井一恭先生(鹿児島大学)

「手術検体を用いた粘液性脂肪肉腫のプロテオーム解析」

田島崇先生(杏林大学)

「手術検体を用いた腎細胞がんのプロテオーム解析」

細谷法之先生(山形大学)

セッション7: アフィニティーに関連する電気泳動技術

オーガナイザー: 大石正道先生(北里大学)

「糖アフィニティー電気泳動法による高分子量タンパク質の解析」

大石正道先生(北里大学)

「アフィニティー電気泳動法の開発と応用」

中村和行先生(徳島医師会病院)

「アフィニティ分子マトリックス電気泳動の新たな技術展開」

亀山明彦先生(産業技術総合研究所)

「低分子化合物の自己集合で形成する超分子ゲルを用いた電気泳動法の開発」

山中正道先生(静岡大学)

セッション8:細胞生物学の最先端科学

オーガナイザー:武川睦寛先生(東京大学)

「ストレス顆粒形成によるストレス誘導アポトーシスの制御と活性酸素によるその破綻」

武川睦寛先生(東京大学)

「ゴルジ体ストレス応答 – ゴルジ体から核へのシグナル伝達」

吉田秀郎先生(兵庫県立大学)

「リボソーム修飾シグナルによる翻訳の動的制御」

稲田利文先生(東北大学)

「直鎖状ユビキチン鎖による炎症・免疫シグナル制御とその破綻による疾患」

徳永文稔先生(大阪市立大学)

セッション9:消化器疾患の診療・研究の現場から

オーガナイザー:伊東文生先生(聖マリアンナ医科大学)

「胃内視鏡洗浄液による分子診断」

伊東文生先生(聖マリアンナ医科大学)

「microRNA フィールド破綻に基づくB型肝炎の発がんリスク診断」

高橋秀明先生(札幌医科大学)

「肝細胞癌の新規腫瘍マーカーの探索」

清川博史先生(神奈川県立がんセンター)

「肝細胞造影による肝細胞癌スクリーニングを可能とする新規X線造影剤開発の試み」

松本伸行先生(聖マリアンナ医科大学)

セッション10:電気泳動を基盤とした研究の現状と今後の展望

オーガナイザー:佐藤雄一先生(北里大学)

「がんの研究におけるプロテオーム解析の考え方」

近藤格(国立がん研究センター)

「特異抗体を用いたチロシンリン酸化酵素の網羅的発現解析による肉腫の治療標的の探索」

喬志偉先生(国立がん研究センター)

「Reverse-phase protein array法を用いた血清診断マーカーの探索」

柳田憲吾先生(北里大学)

「マルチPK抗体:プロテインキナーゼを幅広く認識できる解析ツール」

杉山康憲先生(香川大学)

「新規鶏卵卵黄アレルゲンの探索・同定、食品化学における電気泳動法の応用」

曾川一幸先生(麻布大学)

「癌幹細胞化させた微小乳頭肺腺癌細胞株を用いたプロテオーム解析」

長塩亮先生(北里大学)

ランチオンセミナー

スポンサー:サイノメ株式会社

「新規タンパク質精製デバイスの質量分析への応用」

近藤格・塩澤久美子(国立がん研究センター)



MyRun II
あいみらん [aimiran]

サブマリン型アガロースゲル
電気泳動用装置

あいみらん 🔍

メーカー略号: CBJ

ゲルトレイと泳動槽にUV透過性あり
最大156サンプルの泳動が可能
ミニゲルもセット可能
高い静音性
CEマーキング取得、UL規格取得予定(申請中)、特許出願済

ビビットオレンジが、
ラボを
明るくしてくれます





人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

日本電気泳動学会企業会員

アドバンテック東洋 (株)	癸巳化成 (株)	コスモ・バイオ (株)
(株) 島津製作所	シャープ(株)	ナカライテスク (株)
(株) ナード研究所	日本エイドー (株)	バイオ・ラッド ラボラトリーズ(株)
(株) ヘレナ研究所	和光純薬工業 (株)	(株) クリムゾン インタラクティブ ジャパン

【日本電気泳動学会電子メール通信】は、日本電気泳動学会会員の皆様に配信しています。

【日本電気泳動学会電子メール通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい。

ご意見を【日本電気泳動学会電子メール通信】に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問い合わせ】は、本会事務局 (secretariat@jes1950.jp)宛にお願いいたします。